

毎月5地区で「推進委員会」

紀の川市農業委員会



【和歌山】紀の川市農業委員会（赤坂好哉会長）では、農業委員会の定例総会の開催に先立ち、毎月市内5地区で農地利用最適化推進委員会を開催している。

同委員会が新制度に移行した2016年4月以降、毎月開催している。市町村合併前の旧町単位の農業委員、推進委員、事務局職員が集まり、担当地区の農地の権利移動や転用、農地中間管理事業などの議案を協議する。

同市では、ひと月の農地法関係や農地中間管理事業などの議案が100件を超えることがあるため、事前協議が定例総会の審議時間短縮や、円滑な議事進行につながっている。

農地利用最適化へ活発に意見交換



また、農地の貸し付け希望があった場合はその情報を委員間で共有。当該農地の耕作者候補について協議するなど、担い手に農地をつなぐ活動を活発に行っている。

各地区10人から15人程度の少人数で開催することで、参加者全員が発言しやすい雰囲気醸成。参加者の積極的な発言を促している。また、農地パトロールの進捗確認や農地制度や地域計画関係

の研修、農業者年金の加入推進の情報共有など、地域の実情に即した多様な活動を後押しする機会として活用している。

赤坂会長は「農地の貸付け希望や、担い手の情報と共有する機会は貴重。事務局の負担は大きい。今後も継続していきたい」と話している。

（田村健伍）

「木津川市農地バンク」で新規就農 旬のブドウ・丹波黒枝豆の販売開始



ブドウをPRする田窪悠さん、柚香さん夫妻

【京都】7年前に発足した木津川市農地バンクが着実に成果をあげている。現在までに登録された197筆（113ヘクタール）のうち、48筆（3ヘクタール）の貸借が成立し、新規就農者や家庭菜園の希望者が農地を有効に利用している。

昨年、「木津川市農地バンク」から紹介された不耕作田（60ヘクタール）で新規就農した田窪悠さんは、ブドウ（20種類）と丹波黒枝豆を栽培する。

初収穫を迎えたブドウは、通気性の良い特殊なポットで根域制限栽培を行い、8月から「旬の詰合せ」をメインに販売。大粒で甘い枝豆は約30ヘクタールで栽培する。

木津川市 タクボ農園

【兵庫】県姫路農林水産振興事務所と姫路市農業振興センターは8月28日、同センターで「中播磨スマート農業実演会」を開催。スマート農業に関心のある農業者、農業機械メーカー、販売会社、JA、県、市の担当者などが参加した。

実演会は、経営規模の拡大をめざす農業者や、

農作業軽減、効率化めざす 姫路市でスマート農業実演会

【滋賀】県平和堂と（公財）滋賀県農林漁業担い手育成基金は11月2日、県内での就農をめざす人、農業に関心がある人を対象に野洲市の平和堂ファーム堤ほ場で、ミニトマト農業体験を開催する。写真。

平和堂ファームのミニトマト農業体験は、好評で今回で3回目。ヴィルモランみかど（株）（●●市）を講師に、ミニトマト栽培に係る下葉

「農業の現場、肌で感じて」 11月に野洲市でミニトマト農業体験

【滋賀】県平和堂と（公財）滋賀県農林漁業担い手育成基金は11月2日、県内での就農をめざす人、農業に関心がある人を対象に野洲市の平和堂ファーム堤ほ場で、ミニトマト農業体験を開催する。写真。

平和堂ファームのミニトマト農業体験は、好評で今回で3回目。ヴィルモランみかど（株）（●●市）を講師に、ミニトマト栽培に係る下葉



リモコン草刈機の実演

奈良市 藤井悠生さん

【奈良】「イチゴの中でも独特の風味がある古都華が好きで、自ら栽培したいの思いからイチゴ農家になりました」と話すのは、奈良市の藤井悠生さん（24）だ。

県立なら食と農の魅力創造国際大学校に入學して、「イチゴは単価が高く儲かる」と聞いたことが決め手となり、卒業後、同市の（株）古都華が好きでイチゴ農家に。他の生産者に負けないものを。藤井さんは井農園で栽培技術を学んだ。2023年4月に独立就農し、ハウス3棟（13・5ヘクタール）の規模で高いよう生産に取り組みたい」と意気込む。

（木村将史）



古都華が好きでイチゴ農家に 他の生産者に負けないものを

「自分で作ったものをお客さんに味わってもらうことがやりがいを感じている」と話す藤井さん

大きくて甘いイチゴを栽培するため、温度管理の徹底と天敵の導入を行っている。研修先で学んだことを活かし、農業を極力使用しない安全安心な栽培にこだわっている。

青年 奮闘中 委員

▷36

熊取町 鈴木純さん

【大阪】「意欲ある若手が農業を続けられる環境を見て育った鈴木さん。地域で「長く委員を続けられる若手」として候補に挙げられた際は自然と受け入れ、就任に至った。

個人の取り組みの一つとして、町内の若手農家の集まりである「わりかし若い百姓の会」を設立。会長として、マルシエや地域の小学生を対象とした収穫体験などを実施し、農家と地域住民が交流する機会を創出している。



収穫体験を控える水田で鈴木さん

ベテラン、若手の架け橋に

「農業続けられる環境守りたい」

代々農業を営んできた家系で、農業委員として

近畿 畿

近畿総局 京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東入 丁子風呂町104-2 府庁西別館内 075・441・3660

滋賀県支局 077・523・2439

大阪府支局 06・694・2701

兵庫県支局 078・391・1221

奈良県支局 074・222・1101

和歌山県支局 073・432・6114

令和7年(2025年) 11月2日 開催!

参加者募集中!

ミニトマト農業体験 @平和堂ファーム

農業の現場を肌で感じ、就農への一歩を踏み出してみませんか!

定員: 8名程度

ハウスでのミニトマト栽培体験ができます!

就農前に体験することで、自分が農業に思い入っているのかを確かめることができます!

参加費無料!

日時: 令和7年(2025年)11月2日(日) 9時~14時

会場: 平和堂ファーム堤ほ場(裏面地図)

内容: 座学「ミニトマト栽培の基礎知識」 実習「ミニトマト管理・収穫作業」

講師: ヴィルモランみかど株式会社、カワシマ種苗株式会社

◆共催: 県平和堂、(公財)滋賀県農林漁業担い手育成基金 ◆後援: 滋賀県

お申込み(10月20日×切)は裏面へ

かき、誘引、収穫作業などの体験実習と座学でミニトマト栽培の基礎知識を学ぶ。

就農前に実際のミニトマトハウスで農業体験することで、自分が農業に向いているか確かめることができる。主催者は「農業の現場を肌で感じ、就農への一歩を踏みだしてほしい」と話している。

申し込み・問い合わせは、(公財)滋賀県農林漁業担い手育成基金(担当〓若井、077・523・5505、メール shigano@sepia.ocn.ne.jp)まで。

参加費は無料。申し込みの締め切りは10月20日。

(福井かれん)